

令和3年度 第7期第2回

丹波市下水道事業運営審議会

議 事 録

令和3年11月11日(金)  
春日住民センター

1. 開会日時 令和3年11月11日(金) 午後1時30分 開 会

2. 開催場所 春日住民センター

3. 出席者 (委 員)

坂 谷 高 義 会 長 、 中 塚 達 子 副会長  
上 村 行 男 委 員 、 笹 川 一 太 郎 委 員  
内 堀 恭 子 委 員 、 中 道 知 代 子 委 員  
荻 野 隆 太 郎 委 員 、 吉 見 温 美 委 員  
大 森 友 子 委 員 、 宮 崎 葉 子 委 員  
近 藤 寛 委 員 、 梅 田 秀 光 委 員  
吉 見 和 幸 委 員 、

委員 13 名出席

4. 欠席者 (委 員)

大 野 亮 祐 委 員 、 野 垣 克 巳 委 員  
大 槻 祥 三 委 員 、 細 見 博 美 委 員

委員 4 名欠席

5. 事務局

井上博生 上下水道部長 、 荒木敏明 経営管理課長  
西山健吾 下水道課長 、 安達知史 経営管理副課長  
矢持竜児 下水道経理係長 、 青木一典 下水道施設係長  
和久明一 下水道工務係長 、 荻野佐和子 主幹  
谷垣尚毅 主査 、 藤井 大 主査

6. 会議に付した議題及び案件とその内容

- 日程第1 開 会
- 日程第2 会長あいさつ
- 日程第3 部長あいさつ
- 日程第4 委員紹介
- 日程第5 資格審査報告
- 日程第6 議事録署名人選出
- 日程第7 報告事項「令和2年度決算概要について」
- 日程第8 協議事項「丹波市下水道中期ビジョン2022-2031について」
- 日程第9 報告事項「社会資本整備総合交付金事業について」
- 日程第10 その他
- 日程第11 閉 会

## 7. 議事の経過

### 1. 開 会 『午後1時30分』

(事 務 局)

本日はお忙しい中ご出席賜りまして誠にありがとうございます。

所定の時間が参りましたので、ただ今から、「第7期第2回丹波市下水道事業運営審議会」を開催させていただきます。

本日の進行を務めさせていただきます、経営管理課副課長兼水道経理係長の安達と申します。よろしくお願いいたします。

それでは次第に沿いまして、「2 会長あいさつ」坂谷会長よりご挨拶をいただきます。

### 2. 会長あいさつ

(会 長)

本日は、第7期の第2回の審議会を開催しましたところ、委員の皆様には公私それぞれお忙しいところ、お繰り合わせご出席いただきありがとうございます。平成30年度から令和元年度にかけて「丹波市の下水道使用料のあり方について」の審議を行い、当審議会からの答申を受けて、令和2年度から使用料改定が行われました。

本日は、改定後の使用料を反映した、昨年度の決算概要や、現在、策定中であります「丹波市下水道中期ビジョン2022-2031」、社会資本整備総合交付事業の説明がごございます。

内容でわからないことや疑問なところがございましたら、忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

### 3. 部長あいさつ

(事 務 局)

続きまして、「3 部長あいさつ」上下水道部長の井上より挨拶を申し上げます。

(部 長)

本来なら管理者である市長がご挨拶を申し上げるのが本意ではございますが、あいにく所用のため欠席をさせていただいておりますので代わりましてご挨拶をさせていただきます。

本日は公私ともにご多用の中、丹波市下水道事業運営審議会にご出席いただきましてありがとうございます。

平素は下水道事業をはじめ丹波市行政全体につきまして、それぞれの立場から、ご支援ご協力賜っておりますこと厚くお礼申し上げます。

さて、丹波市の下水道事業は、これまでの、建設・投資の時代から更新・維持管理の時代へと変化しつつありまして、下水道施設の老朽化に対する改築需要の増加、地震や温暖化による集中豪雨など自然災害への対応、人口減少や節水型機器の普及による使用料収入の減少など、様々な課題に直面しております。

このような状況の中で、下水道事業が抱える課題や、広域化・共同化の取り組みなど、今後の施策の方向性や具体的な方策を示すことにより、より効率的かつ効果的な事業を進めていかななくてはなりません。

本日は平成25年に下水道の将来像や展望を示しました丹波市下水道中期ビジョンが今年度で終了することから、新たに、「丹波市下水道中期ビジョン2022-2031の案」を策定いたしましたので本日の議題としてお示しをさせていただきます。

委員の皆様には率直なご意見を頂戴したいと考えております。

そのほか令和2年度の決算報告などをさせていただきますので、十分にご審議をいただきますようお願い申し上げます。本日はよろしくお願いいたします。

#### 4. 委員紹介

(事務局)

本日は変更になられた方のみを紹介とさせていただきます。

本年度、自治会長会からの推薦をいただき、山南地域の竹内安紀委員から野垣克巳委員に委員を交代されております。

野垣委員におかれましては、本日所用のため欠席されておりますので、ご紹介のみとさせていただきます。

#### 5. 資格審査報告

(事務局)

大野委員、野垣委員、細見委員、大槻委員が所用のため欠席されております。

つきましては、委員17名中13名のご出席をいただいております、過半数を超えておりますので、当審議会が成立することをここにご報告いたします。

#### 6. 議事録署名人選出

(事務局)

本日の議事録署名人は、宮崎葉子委員、吉見和幸委員にお願いしたいと思います。

よろしく願いいたします。

#### 7. 報告事項

(事務局)

次に7番に行く前にここで本日の資料の確認をお願いします。

それでは、7の報告事項に入らせていただきます。

丹波市下水道事業運営審議会の設置に関する条例第5条の規定により本会の議長は会長が務めることになっておりますので、坂谷会長よろしく願いいたします。

(議長)

それでは、第7期の第2回丹波市下水道事業運営審議会の議事を進めさせていただきます。

報告事項「令和2年度下水道事業会計の決算概要について」を事務局より説明していただきます。よろしく願いいたします。

(事務局)

－「令和2年度決算概要について」により説明（省略）－

(議長)

ただいま説明をいただきましたがこの内容について、皆さん方ご質問はございませんか。

なんなりと、この言葉はわからないなどでも良いので、ありましたら質問をお願いいたします。

－「質問なし」－

#### 8. 協議事項

(議長)

続きまして協議事項、丹波市下水道中期ビジョン2022-2031を事務局より説明をしていただきます。よろしく願いいたします。

(事務局)

－「丹波市下水道中期ビジョン2022-2031(案)」により説明(省略)－

(議長)

今、事務局から説明ありました。大変たくさん内容でございますけれども、何かご質問はありますか。

(事務局)

先ほどの説明の中で1点補足をさせていただきます。ビジョンの13ページです。

処理施設の統廃合事業につきまして、現在32ヶ所ある処理施設を令和8年度までに18ヶ所に集約するとご説明申し上げましたが、令和8年度までは20ヶ所で、2ヶ所がこの表から漏れております。

と言いますのは、氷上北の処理区に氷の川1、氷の川2という処理区を統廃合する予定ですが、現在、氷上北の浄化センターについては処理能力がいっぱいで、令和8年度までに統廃合できる余力がございませんので、実際には令和8年度までは20箇所までの予定で今現在進めております。以上です。

(議長)

どうですか、皆さん方、何でもよろしいですからご質問をお願いいたします。

(委員)

全体的なことですが、下水道は青垣地域が全然入っていませんが、青垣地域を入れるという市としての計画というものは無いのですか。

(事務局)

青垣地域を含めて、例えば氷上でしたら常楽の大半であるとか、各地域にそれぞれ合併浄化槽の処理区域がございます。

生活排水処理計画で青垣地域は現在、全域が合併浄化槽で処理をするという計画になっており、現行のところ下水道を整備する計画はございません。

(議長)

よろしいですか。

(委員)

わかりました。

(議長)

どうですかみなさん。他にお気づきのことはありませんか。

(委員)

まとめて7点くらいお聞きします。

4ページで上から10行目に下水道の水洗化率97.9%という数字がありますが、青垣を含め各町合併浄化槽はここには含まれないと思っています。全市において合併浄化槽を含めた水洗

化率というのは何%くらいありますか。

それから8ページの「広域化・共同化計画」というのは、そういうことは国がいろいろとされていますが、丹波市もそういった計画はありますか。

また、16ページに地震対策があります。費用がかかるため耐震化はなかなか難しいと思いますが、現在、耐震化された処理場がどれくらいあるのかお聞きします。

それと丹波市内で一番大きな処理施設が、万が一被災を受けた場合の対応策というような具体的な計画はありますか。今度の中期ビジョンの中の10年間でそれが発生した場合、心配なところがあります。先日の和歌山県のようなことがあるかもしれませんので。

それから18施設になるということですが、例えば動力費を減らすために下水道施設に太陽光発電など設置することを考えられていますか。これについては対費用効果もあるので一足飛びにいかないと思いますが。

あとは流動比率の中で目標値を120%にされていますが、26ページの事業評価のD Oの成果の中での流動比率が令和6年度まで170という数字があります。ビジョンでは目標120とされていますが、なぜ170という数字が出てくるのかが疑問です。

それともう1点、柏原地域の雨水ポンプ場の計画です。前のビジョンにおきましては、今のところはもう柏原地域はできないというような文面も書いてありますので、今回の中期ビジョンの中で柏原の雨水ポンプ場はどうされるのか教えてください。

以上でございます。長々とすみません。

(議長)

事務局の方から一つ一つ、回答をお願いします。

(事務局)

まず1点目、4ページの下水道水洗化率97.9%につきましては、下水道区域のみの水洗化率でございます。これに合併浄化槽が整備されて、処理されている地域を合わせた率を生活排水処理率と呼びます。今、手元に資料がありませんが概ね98%前後だったと記憶しております。

それから、8ページ目の広域化・共同化計画につきましては、もともと国が想定しております広域化・共同化については、市町村域を跨る広域化・共同化計画を策定して進めておりましたが、なかなか市町村域を跨る広域化は難しく、兵庫県については生活排水効率化推進会議を設け、水質検査の委託を県でとりまとめ一本化するとか、薬品の購入を一本化するとか、ソフト事業的な事などは現在取り組まれておりますが、ハード整備、県域で言いますと、市町村を跨る下水道を流域下水道と言うのですが、加古川の流域下水道、そちらに繋がるような計画をすすめるまでには至っておりません。

モデルとして小野市にあります加古川北流域に多可町の下水道を入れるというような目標は持たれていますが、なかなか設置自治体の理解が得られないなど課題がございます。

他府県では秋田県で県下を跨いだ下水道の処理をするとか、広島県も全域でそういうような取り組みをされております。今現在取り組みが始まったところであり、丹波市もできるだけ広域化で効率化できるような、計画があれば取り組みたいと考えております。

それから16ページの耐震化の状況でございます。これも手元に資料がありませんが、公共下水道と特定環境保全公共下水道の11施設につきましては、合併前の旧町の段階で耐震診断をした中で概ねどこも耐震レベル1はクリアしており、部分的な建物でクリアしていないものがあるという状況です。

農業集落排水施設については耐震の診断対象になっておりませんでしたので、その結果がございません。ですので、今、統廃合事業をする中で農業集落排水施設で耐震化診断を行いました。

て、不足する分については耐震化していくというような形で進めております。

それから市内で一番大きな施設が被災した場合の対応策等あればということですが、市内で一番大きな施設というのは柏原浄化センターになります。

例えば、そこが浸水被害にあった場合、汚泥がすべて河川へ流れないような形で汚泥を沈降させて、薬注して放流するというような簡易放流の形でしか、今のところ方法は無いと考えております。

前の中期ビジョンの中では、柏原と氷上東が隣接しておりますので、災害時用には連結管で連絡をして、相互処理をするような形の計画が上がっていましたが、今現在、計画は進んでおりませんが、そういったことも考えていきたいと考えております。

(事務局)

それから、次に動力費の話ですが、現在は太陽光を取り入れる具体的な計画までは、まだ考えていない状況です。

資料1の決算書を見ていただきますと、動力費は確かに大きく、円グラフでは汚水処理原価の約10%くらいです。

統廃合が進めば小さくなっていきますが、今回のビジョンの中では、まず現在契約中の電力会社との契約内容を見直すことによって、ある程度経費を削減できないかと考えております。

それから、流動比率についてご指摘のように26ページの表については右肩上がりです。

平成27年に企業会計になってから実際に現金自体は増えてきております。ですので、これを作った時に上がって行くという想定をしておりましたが、もっと細かい積算をして、この十年間のシミュレーションをしたときに、そこまで現金が増えなかったというのが一つと、この時には計画がありませんでしたが、支払準備金を除く余剰資金について、地方債などの有価証券を購入することで収入もできるだけ増やしていこうという取り組みを考えております。

債券の購入については、支払準備金や建設工事にかかる費用との加減を見ながら進めていきたいと思っております。

(事務局)

最後に、柏原地域の雨水ポンプ場の整備の件ですが、北柏原川の氷上の工業団地、ビッグがある方に柏原の雨水が流れ込んでおります。

北柏原川が天井川となっており内水対策ということで、現在、上下水道部ではなくて建設部で整備を行っております。

それと丹波市の雨水管理総合計画を立て、市内全域で内水排水の対策を立て、今後整備していくという取り組みを始めています。その関連で上下水道部の関わりについては、その計画の中で盛り込んでいくよう、今計画中でございます。

また、そういう計画ができましたら、お知らせしたいと思います。

(委員)

大変多くの質問をさせてもらい、ありがとうございました。

今私たちこうして、水を使えばすぐ下水道に流れていくという便利な生活をさせていただいております。

今後とも仕事に頑張っていただけたらありがたいと思っております。よろしく申し上げます。

(議長)

ほか皆さん、どうですか。

(委員)

まずこのビジョンの計画の策定にあたりまして、今年度の財政当局とのすり合わせはされているのかどうかということです。

それと19ページで、第6章の経営戦略の中の財政基盤の強化の経常収支比率の件でお尋ねします。6行目にあります「単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要です。」と書いてありますが、示すと後の比率の間に「比率が」を入れ、「示す比率が100%以上となっている」という表現の方がわかりやすいかと思います。

それは次の23ページの流動比率のところでも上から4行目に同様の表示がありますので、そこにも加えていただいたらどうかと思います。

また19ページの中の9行目に「一般会計の繰入金の適正化を図るとともに」というような事が書かれていますが、これは現時点では適正ではないと逆の受け止め方もできます。

ここは、財務部局とのルール化ということが後からでてきますが、特に普通交付税に参入されている分が全て繰り入れされているかどうかです。

これは行政間の中のやりとりの話ですので、場合によっては折衝とかそういった中で間違っている可能性もないとは言えませんので、確認をさせていただきたいと思います。

できましたら、基準内繰入と基準外繰入の説明も教えていただいたらありがたいと思います。

財政当局とのすり合わせがきちんとできており、適正であるのであれば「一般会計繰入金の適正化を図るといふ」ことは必要ないと思います。

それから20ページの上から4行目に「財務部局からルール化により企業債の元金償還のため」とありますが、これは元金で良いのですね。

(事務局)

はい。元金です。

(委員)

利子は関係ないのですね。

(事務局)

はい。

(委員)

わかりました。

それと23ページの上から5行目の資金の内部留保についてですが、内部留保をたくさん持ちすぎると繰入金に影響しますか。

将来的には災害もあるでしょうし、今すでに計画されている施設整備、ポンプの老朽化に伴う更新もありますし、内部留保は当然必要だと思います。

先程の2031年度の目標値で19ページの経常収支比率ですが、110%という数字をだされていますが、これは実現可能な数字ですか。

この令和2年度までの推移を見ますと概ね105%までいきますので、この10年間で105%はクリアできる数字だと思いますが、状況が刻々と変化しますのである程度厳しく見られる方が良いのかなと思います。以上でございます。

(議長)

事務局回答、よろしく願いいたします。



(事務局)

まず、このビジョンの財政当局とのすり合わせですが、経営管理課から財政当局へ投資財政計画を提出し、一般会計側の収支計画等に反映をしていただくように調整している最中です。

表現についてはおっしゃる通り、「比率が100%を超えていることが」ということで、ご指摘ありがとうございました。後で見直しをしたいと思っております。

それから19ページの「一般会計の適正化を図る」という文言が不要ではということですが、実際に財政当局と毎年一般会計繰入金についてはヒアリングを行い、現在の下水道事業の状況や一般会計の状況をすり合わせたうえで一般会計繰入金の確定をしています。

おそらく、このままでは適正でないというような捉え方をされると思いますので、文言については、再度検討させていただきます。

現在、適正というよりは、繰出基準に基づいた基準内繰出と、災害など交付税対象になっている部分以外は元金償還金に充てるもののみでございます。

一般会計繰入金の状況としましては、丹波市合併以来、一番多い時には26億から27億程度の繰入額でしたが、地方公営企業を適用した以降は、繰出対象が元金償還金から減価償却費に置き換わったため、10億近く減っております。

一般会計側から見ると、かなり経費としては下がってきている状況で適正でないとは思っておりません。

(事務局)

繰出金の件でございます。

まず一つその内部留保が溜まることによって、繰出金に影響はしないかというご質問でしたが、基準内繰出は別の算定を行いますので直接影響はありません。

31ページ、32ページの表で、繰出金のこの10年間の見込みを立てていまして、合計では令和4年度が15億円、15億のうち3億円が基準外繰出金として財政部局と調整をしながら、元金に対して繰入れを行う予定にしています。

そして、その基準外繰入金を目に見いただきますと、令和10年度までで無くなっております。

繰出金の内容については細かい基準があり、基本的には減価償却費と元利償還金に対して、繰り入れが行われます。

元利償還金は、令和5年度が大体ピークで、これから減少していく見込みをしており、ここまで基準外を入れると資金繰りもなんとかなるという計算をしております。

委員ご指摘の経常収支比率が高くないかということですが、確かに片方で経費回収率については「105%」としておりますので、この「110%」が良いのかどうか、2月頃に運営審議会を開催予定ですので、その時までには検討します。

(委員)

企業債の元金は基準内繰入、ルール化によってきっちり間違いなく繰り入れられているのですね。

これは、ルール化されるような感じではないのですが、そうではないのですか。

(事務局)

平成26年度までの特別会計時には、概ね25億円以上一般会計から繰り出しがありました。借金をしてきた元金とその利子に係る部分を算定根拠として、25億円ぐらいになりました。

公営企業になりますと、算定基礎の一部が元金から減価償却費に置き換わります。

元金は、概ね 30 年で償還しますので、単純平均で 1/30 ずつです。

減価償却費は、概ね下水道事業の場合は 44 年ぐらいですので、14 年分ほど費用化する金額が少なく、減価償却で算定する方が、一般会計から出すお金が減ります。

ただし、会計方式が変わったからといって、出るお金については何ら変わらないということで、平成 26 年度、平成 27 年度にかけまして、財政当局と不足する資金について協議し、基準外ではあるけどもルール化して何とか不足する財源について繰出してしてもらえよう、取り決めたものが基準外のルール化分です。

それについて、資本的収支元金以外、利子の方でいただきますと、収益的収支の方が黒字になってしまいますので、元金側で繰入をしております。

それでも足りない部分については、元金償還金と減価償却費の差額の部分をマックスとして起債を返すための借金を今現在しております。

そういう起債で対応して資金繰りをしているという状況で、総務省が示している基準に基づく元金・利子についての繰出金は、交付税参入されておりますし、それを原資として一般会計からは満額いただいております。

(議 長)  
よろしいか。

(委 員)  
ありがとうございました。

(議 長)  
それでは、他にございませんか。

(委 員)  
ビジョンは、21 年中に完了して出されると思うのですが、それでよいですか。  
それと 4 年生の社会の出前講座は子供たちの意識を改革するには大変良いと思います。  
それと令和 2 年度の料金改定ですが、2 段階から 6 段階にと記憶に新しいところですが、利用者の皆さんへの影響や、改定してどうだったかということをお聞きします。

(事 務 局)  
一番最初は 2021 年で、前の中期ビジョンが完了します。  
平成 25 年 5 月の策定で、当時の下水道事業審議会に諮りまして策定しました。  
その後、平成 26 年に丹波市豪雨災害の被災があり、統廃合など示していた施策について、2、3 年頓挫いたしました。今現在、引き続いてやっている状況で、その期限が切れたことと、前回は、官庁会計方式での収支計画等を示しておりましたので、改めて、複式簿記での会計方式での収支財政計画を立てて、今回のビジョンの改定を行っております。  
それから 2 点目、17 ページの出前講座については、小学校 4 年生において、事業の一環で水道施設と下水道施設、それぞれ施設見学を含めて出前講座を行っております。  
昨年、今年と、コロナ禍の影響で施設を直接見ていただくということは控えており、学校まで出向きまして、出前講座の授業をしております。  
例年ですと 15 校ぐらいまで、要望がございます。  
委員がおっしゃられるように、小学生たちがお父さんお母さんに言うことで、下水道の正しい使い方を、改めてお父さんお母さんが認識されるようなことがありますので、今後も続けていきたいと考えております。

続いて料金改定後の市民への影響ですが、審議会の中でもたくさん議論していただいて、事務局も方向性を探る中で、委員さんにも難しい中で検討していただきました。

今回は、丹波市の「基本料金がなくて、従量料金が2段階のために、たくさん使用されている事業者ほど、他市に比べたら安かった」という状況を解消し、基本料金を少しでも下げるために、税抜きの2,700円を600円下げ、2,100円にしました。

下水道の使用料は年々減っており、料金収入は平成26年度をピークに減る予想をしておりましたが、コロナの影響が昨年からあり、逆に決算では4,000万円ほど令和元年度から上がっております。

使用水量も減る見込みから上がってきております。

これは水道事業も同様で、コロナの影響で、自宅で水を使われる需要が多かったと考えております。

大口使用者、特に丹波市内では病院がたくさん使われていますが、一部の病院では、水道の蛇口から計算するのではなくて、流す水に排水流量計をつけて算定する方式に変える対応をしましたが、具体的にはそれ以外で上がったことに対する不満ですとか苦情の電話というような意見はちょうだいしておりません。

(議 長)

よろしいですか。

(委 員)

はい。ありがとうございました。

## 9. 評価事項

(議 長)

それでは、次に行きたいと思います。

続きまして、評価事項、「社会資本整備総合交付金事業について」事務局よりご説明をしていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

(事 務 局)

－「社会資本整備総合交付金事業について」により説明（省略）－

(議 長)

この内容につきまして、何かご質問、ご意見ございませんか。はいどうぞ。

(事 務 局)

質問を受ける前にビジョンの作業、作成のスケジュールをご報告させていただきます。

今回、審議会でこちらのビジョンの内容を見ていただいておりますが、この後、来月に議会に報告をした後、1月にパブリックコメントを実施し、広く市民の方に意見の募集をさせていただきます。

これが1月の約1ヶ月間で、そのあと2月の中旬頃にまたこちらの運営審議会の方で、議会やパブリックコメントでいただいた意見を反映させた結果の報告をいたします。

そのあと、最後に3月の議会において、再度でき上がったものを報告するというような作業スケジュールとなっております。

(議 長)

当初12月にパブリックコメントの予定が、1月にパブリックコメントですか。

(事務局)

はい。1か月遅れます。

(議長)

そうですか。どうですか皆さん。今の評価事項のところと、ほかご質問ありませんか。

(委員)

3番のストックマネジメント計画とは。下水道設備となっていますが、これは管路も含まれますか。

それと、ほぼ完了したということですが、一番古い公共下水で氷上の中央に設置されてから経過しているところもありますが、管路の傷み具合もありますので、改築とかそういう計画は今後させられますか。

(事務局)

3番のストックマネジメント計画につきましては、管路も含まれます。

ただ、氷上中央の古い初期段階の管路については、すでに改築が終わっております。

その他につきましては、平均で大体25年経過しておりますが、耐用年数については50年から75年です。

しかし、不明水等がありますので順次修繕しながら、管路を維持していきます。以上です。

(議長)

よろしいか。

(委員)

はい。ありがとうございます。

(議長)

どうですか皆さん、他全体で何かご質問ありませんか。

－「質問なし」－

## 10. その他

(議長)

無いようでございますので、今日の協議事項は全て終了いたしました。ありがとうございます。

それでは、レジュメのその他に行きます。

次回の開催日程ですが、1月中にパブリックコメントを実施して、それを受けて2月上旬に今度の審議会を開催するというので、日程が決まったらおしらせください。

それで3月議会に上程ですね。

(事務局)

はい。そういうことです。

## 11. 閉 会

(会 長)

本日は本当にありがとうございました。

第2回の会議につきまして以上を持って終了させていただきます。

それでは副会長から閉会のごあいさつをお願いします。

(副 会 長)

委員の皆様、本当に活発なご意見をたくさんありがとうございました。

私は資料をいただいた時に読ませていただいて、わからないことがたくさんありましたが、今日は少しだけ解ったような気がします。

私事ですが、丹波に住みまして40年になり、家の中の水回りとか修理をしていかないといけないところがたくさん出てまいりました。

下水道も同じなのかと思い、下水道を管理される上で、人口が減って施設も老朽化して、どんどんお金が掛かり、かなりの負担が出るのではないかと心配しております。

委員の皆様には今後ともご意見、ご議論をお願い申し上げまして閉会のごあいさつとさせていただきます。

本日はこれもちまして、下水道事業運営審議会を閉会といたします。

皆様大変ご苦勞様でございました。ありがとうございました。

『午後 3 時 20 分終了』